

平成27年度宮城県学力・学習状況調査結果について（速報）

宮城県教育委員会

1 実施状況

（1）調査の目的

- ① 宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、今後の教育施策の企画・立案に活用する。
- ② 本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析することにより、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図る。

（2）調査実施期日等

平成27年4月14日（火）

（3）調査対象（仙台市を除く）

- ① 小学校5年生及び特別支援学校小学部5年生の全児童
- ② 中学校2年生及び特別支援学校中学部2年生の全生徒

（4）調査事項及び内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校5年生：国語，算数
 - ・中学校2年生：国語，数学，英語
 - ※基礎・基本に関する問題が全体の約8割
 - ※思考力・判断力・表現力に関する問題が全体の約2割
- ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

（5）実施校（仙台市を除く）

- ① 小学校調査 267校
- ② 中学校調査 142校

（6）実施児童生徒数（仙台市を除く）

- ① 小学校調査 10,949人
- ② 中学校調査 11,532人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果

- 全体の平均正答率では、小5、中2の全ての教科で「期待値」※1とのかい離は5ポイントの範囲内であり、有意差は見られなかったが、小5の国語は、期待値とのかい離が大きく課題が見られる。
- 「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったが、小5の国語、中2の全ての教科で期待値を下回っており、やや課題が見られる。小5の国語は、期待値とのかい離が大きく課題が見られる。
- 「思考力・判断力・表現力」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったが、小5の国語、中2の国語、英語は期待値を下回っており、かい離も大きく課題が見られる。
- 小5の国語、中2の英語は、全ての経年比較でマイナスであり、課題が見られる。
- 小5の算数、中2の数学は、全ての経年比較がプラスとなり、改善傾向が見られる。

＜表1＞学年・教科ごとの宮城県平均正答率（全体、基礎・基本、思考力・判断力・表現力）

（単位 %）

校種	教科	年度	全体				基礎・基本				思考力・判断力・表現力			
			県平均正答率	期待値	期待値との比較※2	経年比較※3	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
小学校	国語	H27	62.0	66.7	-4.7	-0.8	64.8	69.5	-4.7	-0.6	46.0	50.2	-4.2	-1.4
		H26	63.8	67.7	-3.9		67.9	72.0	-4.1		46.0	48.8	-2.8	
	算数	H27	71.3	70.5	0.8	0.4	73.3	73.0	0.3	0.5	61.8	59.0	2.8	0.0
		H26	74.4	74.0	0.4		76.2	76.4	-0.2		67.5	64.7	2.8	
中学校	国語	H27	62.9	64.9	-2.0	0.3	66.8	68.3	-1.5	0.8	45.6	49.7	-4.1	-2.4
		H26	65.3	67.6	-2.3		67.4	69.7	-2.3		53.7	55.4	-1.7	
	数学	H27	61.8	63.0	-1.2	3.1	63.3	64.9	-1.6	2.9	56.2	56.0	0.2	3.6
		H26	58.9	63.2	-4.3		61.5	66.0	-4.5		49.7	53.1	-3.4	
	英語	H27	65.6	68.3	-2.7	-1.3	71.2	73.5	-2.3	-0.8	47.5	51.1	-3.6	-2.2
		H26	69.3	70.7	-1.4		73.8	75.3	-1.5		53.9	55.3	-1.4	

※1 「期待値」について

全国的な水準で期待すべき想定平均正答率を県が設定した参考値である。

※2 「期待値との比較」について

県平均正答率と期待値とのかい離を表した値である。

※3 「経年比較」について

H27の「期待値との比較」の値をH26の値と比較したものである。調査年度により、調査問題、対象児童生徒が異なるため県平均正答率ではなく、「期待値との比較」の値の差によって比較した。

(2) 小学校国語

○「書くこと」、「話すこと・聞くこと」に課題がある。

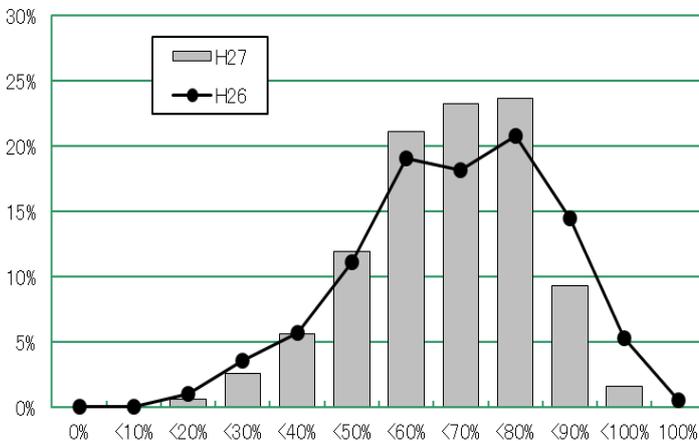
- ・「教科全体」、「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、期待値を下回っており、かい離は大きい。経年比較もマイナスとなっており、課題が見られる。
- ・「書くこと」については、期待値との比較、経年比較の両面から見て課題がある。また、「話すこと・聞くこと」については、期待値との比較では有意差は見られないが、経年比較においてマイナスとなっており、課題が見られる。「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、期待値との比較でやや課題は見られるものの、経年比較ではプラスになっており、改善傾向が見られる。

<表2> 領域別平均正答率

(単位 %)

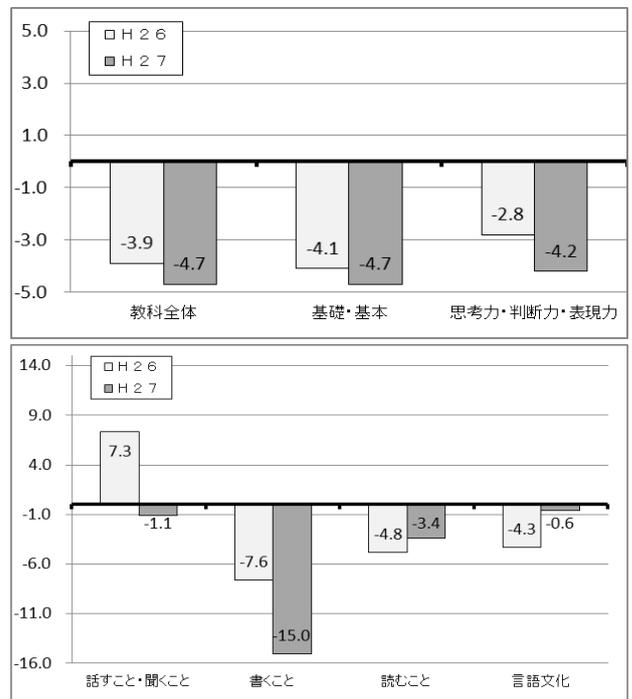
分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	62.0	66.7	-4.7	-0.8
		H26	63.8	67.7	-3.9	
	基礎・基本	H27	64.8	69.5	-4.7	-0.6
		H26	67.9	72.0	-4.1	
	思考力・判断力・表現力	H27	46.0	50.2	-4.2	-1.4
		H26	46.0	48.8	-2.8	
領域	話すこと・聞くこと	H27	70.5	71.6	-1.1	-8.4
		H26	68.6	61.3	7.3	
	書くこと	H27	54.8	69.8	-15.0	-7.4
		H26	59.9	67.5	-7.6	
	読むこと	H27	55.9	59.3	-3.4	1.4
		H26	61.2	66.0	-4.8	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H27	68.6	69.2	-0.6	3.7
		H26	66.9	71.2	-4.3	

★正答率度数分布



※4 「★経年比較」は、「期待値との比較」の値をグラフ化し、経年比較を表したものである。以下のグラフにおいて同じ。

★経年比較 ※4



(3) **小学校算数**

○「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「図形」にやや課題がある。

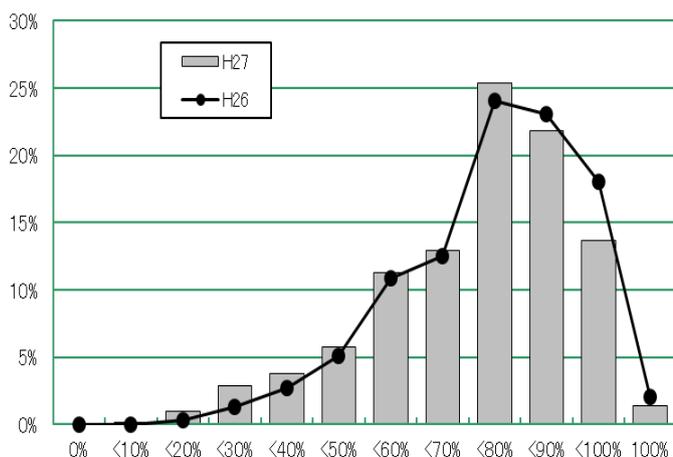
- ・「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」について、全て期待値を上回り、経年比較でもプラスであり改善傾向が見られる。
- ・「図形」は、期待値との比較では有意差は見られないが、経年比較でマイナスとなっており、やや課題が見られる。

<表3> 領域別平均正答率

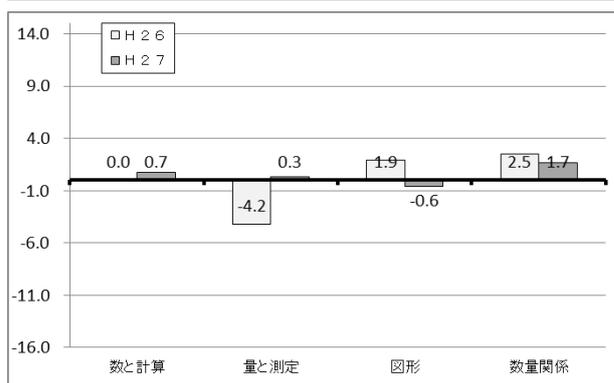
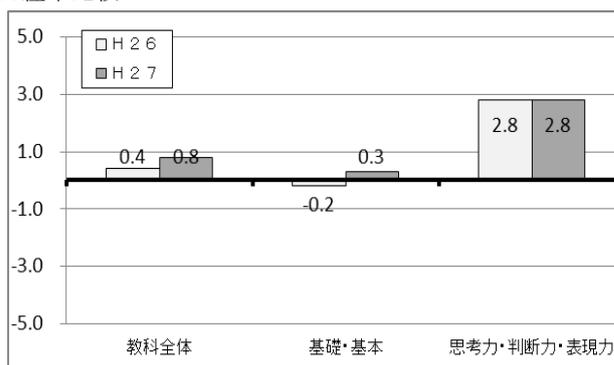
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	71.3	70.5	0.8	0.4
		H26	74.4	74.0	0.4	
	基礎・基本	H27	73.3	73.0	0.3	0.5
		H26	76.2	76.4	-0.2	
	思考力・判断力・表現力	H27	61.8	59.0	2.8	0.0
		H26	67.5	64.7	2.8	
領域	数と計算	H27	78.9	78.2	0.7	0.7
		H26	78.4	78.4	0.0	
	量と測定	H27	77.1	76.8	0.3	4.5
		H26	74.9	79.1	-4.2	
	図形	H27	65.1	65.7	-0.6	-2.5
		H26	75.8	73.9	1.9	
	数量関係	H27	59.2	57.5	1.7	-0.8
		H26	67.9	65.4	2.5	

★正答率度数分布



★経年比較



(4) 中学校国語

○「書くこと」に改善が見られるが、他の領域において課題がある。

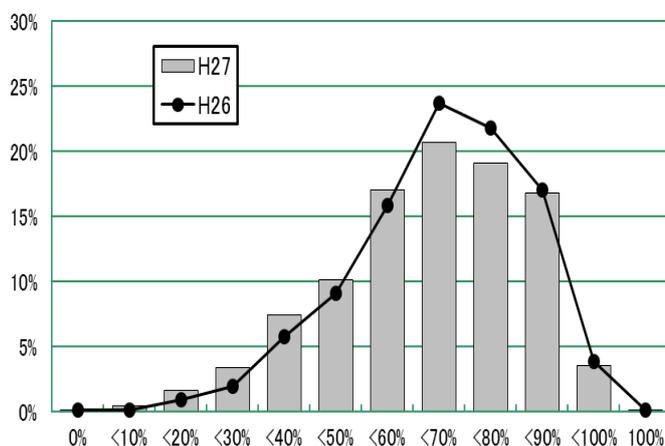
- ・「教科全体」、「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、期待値を下回っておりやや課題が見られたが、「教科全体」と「基礎・基本」は経年比較でプラスとなり、改善傾向も見られる。
- ・「書くこと」については、期待値を5ポイント以上上回り、経年比較も大きくプラスとなったことから改善が見られる。他の領域については期待値を下回り、期待値とのかい離もやや大きく、経年比較もマイナスとなっていることから課題がある。

<表4> 領域別平均正答率

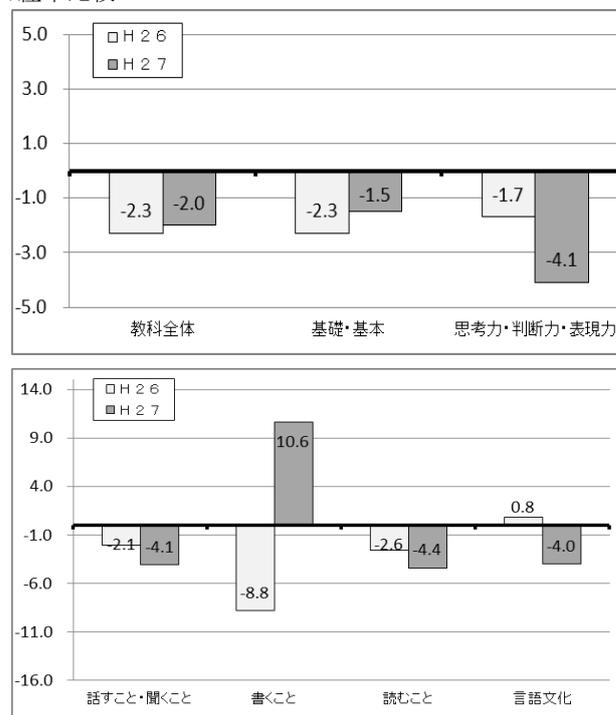
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	62.9	64.9	-2.0	0.3
		H26	65.3	67.6	-2.3	
	基礎・基本	H27	66.8	68.3	-1.5	0.8
		H26	67.4	69.7	-2.3	
	思考力・判断力・表現力	H27	45.6	49.7	-4.1	-2.4
		H26	53.7	55.4	-1.7	
領域	話すこと・聞くこと	H27	76.0	80.1	-4.1	-2.0
		H26	75.3	77.4	-2.1	
	書くこと	H27	73.2	62.6	10.6	19.4
		H26	67	75.8	-8.8	
	読むこと	H27	55.1	59.5	-4.4	-1.8
		H26	59.9	62.5	-2.6	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	H27	60.4	64.4	-4.0	-4.8
		H26	65.5	64.7	0.8	

★正答率度数分布



★経年比較



(5) 中学校数学

○「関数」に課題がある。

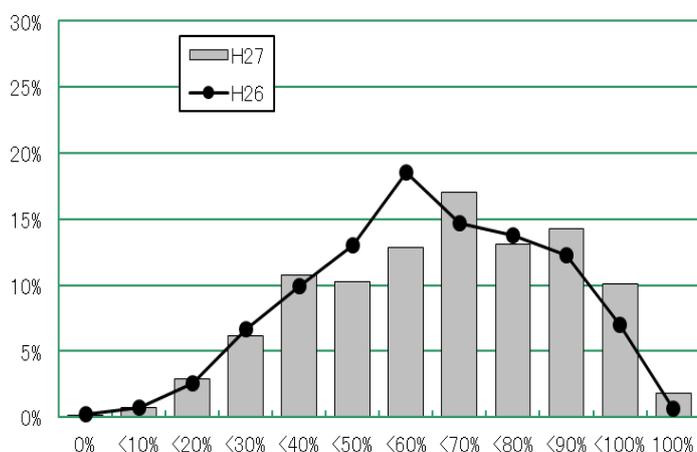
- ・「思考力・判断力・表現力」以外は、期待値をやや下回っており課題が見られるが、経年比較が全てにおいてプラスとなっており改善傾向が見られる。
- ・「資料の活用」では、期待値との比較、経年比較ともに大きくプラスになり、改善傾向が見られる。「関数」では、5ポイント以上の有意差は見られないが、期待値を下回り、経年比較も横ばいであることからやや課題が見られる。

<表5> 領域別平均正答率

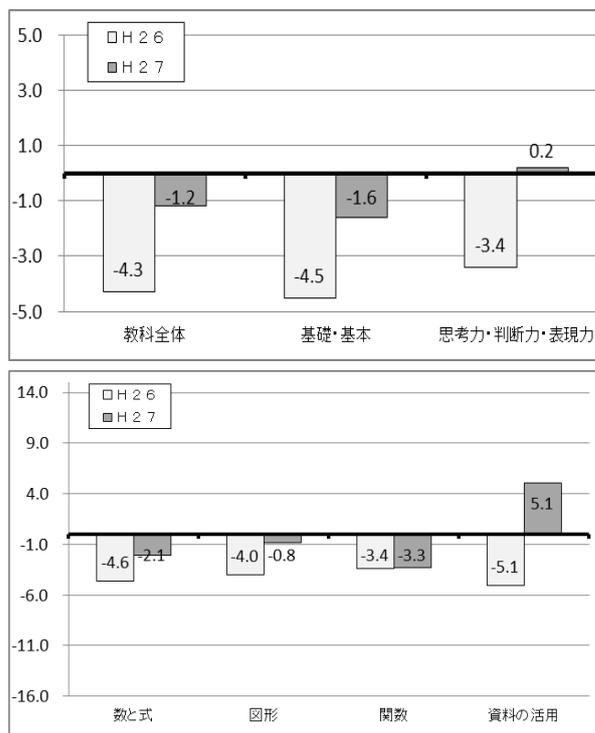
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体・基礎・活用	教科全体	H27	61.8	63.0	-1.2	3.1
		H26	58.9	63.2	-4.3	
	基礎・基本	H27	63.3	64.9	-1.6	2.9
		H26	61.5	66.0	-4.5	
	思考力・判断力・表現力	H27	56.2	56.0	0.2	3.6
		H26	49.7	53.1	-3.4	
領域	数と式	H27	66.7	68.8	-2.1	2.5
		H26	63.6	68.2	-4.6	
	図形	H27	59.3	60.1	-0.8	3.2
		H26	49.3	53.3	-4.0	
	関数	H27	57.0	60.3	-3.3	0.1
		H26	57.9	61.3	-3.4	
	資料の活用	H27	52.0	46.9	5.1	10.2
		H26	61.2	66.3	-5.1	

★正答率度数分布



★経年比較



(6) 中学校英語

○「書くこと」は改善傾向が見られるが、「聞くこと」とともに課題がある。

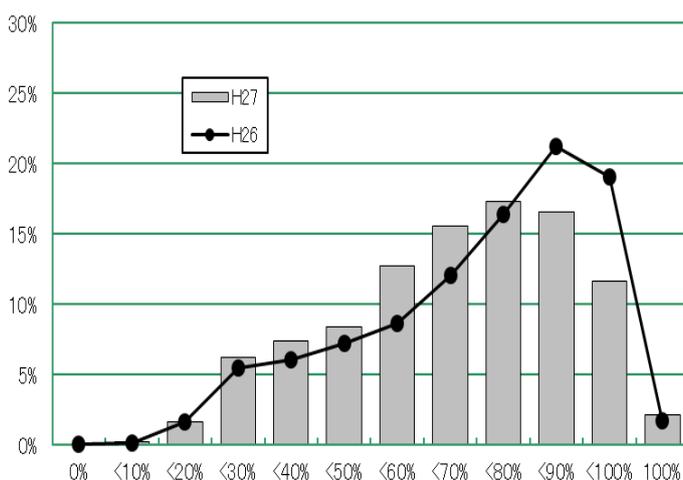
- ・全ての区分で期待値を下回っており、課題が見られる。
- ・「聞くこと」は、期待値との比較では有意差はないが、経年比較では大きくマイナスとなっており、課題が見られる。「書くこと」は、期待値を下回っており課題は残るが、経年比較では大きくプラスとなっていることから、改善傾向が見られる。

<表6> 領域別平均正答率

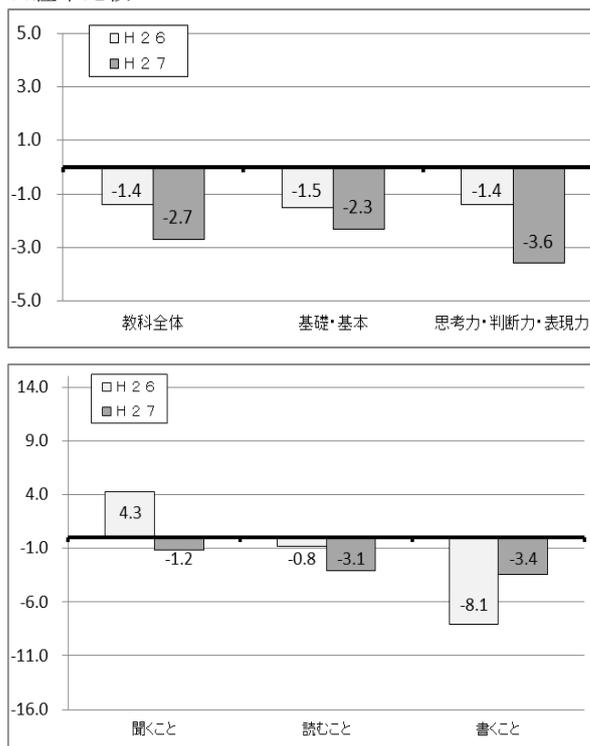
(単位 %)

分類	区分	年度	県平均正答率	期待値	期待値との比較	経年比較
全体 ・ 基礎 ・ 活用	教科全体	H27	65.6	68.3	-2.7	-1.3
		H26	69.3	70.7	-1.4	
	基礎・基本	H27	71.2	73.5	-2.3	-0.8
		H26	73.8	75.3	-1.5	
	思考力・判断力・表現力	H27	47.5	51.1	-3.6	-2.2
		H26	53.9	55.3	-1.4	
領域	聞くこと	H27	77.5	78.7	-1.2	-5.5
		H26	76.2	71.9	4.3	
	読むこと	H27	63.4	66.5	-3.1	-2.3
		H26	70.9	71.7	-0.8	
	書くこと	H27	58.3	61.7	-3.4	4.7
		H26	60.0	68.1	-8.1	

★正答率度数分布



★経年比較



(7) 質問紙調査結果の概況

※回答欄の数値は、「当てはまる」, 「どちらかといえば当てはまる」の割合を合計した値 (%)

※経年比較欄の数値は H27 と H26 との回答の差

児童生徒質問紙調査の結果

① 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項

- 先生から声を掛けられたり、励まされたりしているとする割合が小5, 中2ともに7割を超え、先生が話を聞いてくれる, 良いところを認めてくれるとしている割合は, 8割を超えている。経年比較もプラスであり, 肯定的に受け止めている児童生徒が多くなっている。
- 授業のはじめに目標を示されていると思っている割合は, 小5, 中2とも高い。授業の最後に振り返る活動をよく行っていると思っている割合は, 小5, 中2とも低く, 課題はあるが, 経年比較では改善傾向が見られる。
- 自分の考えをノートに書くようにしている割合は, 小5で7割を超えている。中2では5割程度と低く課題があるが, 経年比較から改善傾向が見られる。
- 家で授業の予習, 復習をしている割合は小5, 中2ともに5割前後で低く, 課題があるが, 経年比較では改善傾向が見られる。
- 平日, 家庭などで小5で1時間以上勉強している割合は, 5割を超えているが, 経年比較ではマイナスでありやや課題が見られる。中2で2時間以上勉強している割合は, 2割程度と低く課題がある。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
1 先生から声を掛けられたり, 励まされたりしますか	H27	73.7	4.0	70.7	5.2
	H26	69.7		65.5	
2 先生はあなたの話を聞いてくれますか	H27	91.7	4.9	85.4	5.9
	H26	86.8		79.5	
3 先生は, あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	H27	84.8	3.8	80.2	4.4
	H26	81.0		75.8	
4 授業のはじめに先生から (めあて・ねらい) が示されていると思いますか	H27	82.1	1.6	78.9	5.4
	H26	80.5		73.5	
5 授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか	H27	66.7	0.6	57.0	4.8
	H26	66.1		52.2	
6 授業で, 自分の考えをノートに書くようにしていますか	H27	71.9	-2.0	55.5	4.9
	H26	73.9		50.6	
7 家で学校の授業の予習をしていますか	H27	48.3	4.1	40.9	4.1
	H26	44.2		36.8	
8 家で学校の授業の復習をしていますか	H27	57.6	-0.3	58.6	8.0
	H26	57.9		50.6	
9 学校の授業時間以外に, 普段 (月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか (塾や家庭教師含む, 小学校: 1時間以上, 中学校: 2時間以上)	H27	52.7	-4.1	24.2	2.1
	H26	56.8		22.1	
10 土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか (塾や家庭教師含む, 小学校: 2時間以上, 中学校: 3時間以上)	H27	21.9	0.1	12.8	-0.3
	H26	21.8		13.1	

② 震災の影響

- 経年比較から, 中2については, 少しずつ震災の影響を乗り越え始めているように思われる。一方, 小5については, 授業に集中できないときがある, 落ち着かなくなることがあると回答した割合がやや高く, 経年比較からも昨年度より増えていることが分かる。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
11 (小) 震災があったために, 家庭学習がやりにくいですか (中) 震災があったために, 家庭学習がやりにくくなりましたか	H27	16.7	-1.9	12.7	-0.3
	H26	18.6		13.0	
12 突然震災を思い出し, 授業に集中できないときがありますか	H27	16.2	2.6	5.6	0.2
	H26	13.6		5.4	
13 突然震災を思い出し, 気持ちが落ち着かなくなることがありますか	H27	22.0	4.4	9.3	-2.6
	H26	17.6		11.9	

③ 学習の理解度

- 小5では, 国語, 算数の授業の内容が分かるとしている割合は, 9割前後であり高くなっている。中2でも, 国語, 数学, 英語とも7割を超え, 高くなっている。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
14 国語の授業の内容はよく分かりますか	H27	90.2	2.5	85.5	2.6
	H26	87.7		82.9	
15 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	H27	89.8	0.8	72.5	0.7
	H26	89.0		71.8	
16 英語の授業の内容はよく分かりますか	H27			72.0	-0.1
	H26			72.1	

④ 基本的な生活習慣

- 朝食を毎日食べることなど、学力向上を支える基本的な生活習慣については、小5、中2ともに肯定的な回答をした割合が高く、概ね身に付いている。
- 小5では、テレビやビデオを見る時間、テレビゲームの時間が減っており、改善傾向が見られる。中2では、その質問事項に加え、携帯電話やスマートフォンの使用時間も減っており、全体として改善傾向が見られる。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
17 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	H27	76.7	-2.3	78.6	1.4
	H26	79.0		77.2	
18 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	H27	89.3	0.0	92.2	-0.1
	H26	89.3		92.3	
19 朝食を毎日食べていますか	H27	96.3	-0.2	94.4	-0.1
	H26	96.5		94.5	
20 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームを除く）→3時間以上と回答した割合	H27	26.1	-1.1	25.9	0.5
	H26	27.2		25.4	
21 平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか→3時間以上と回答した割合	H27	10.8	-1.5	16.3	-1.7
	H26	12.3		18.0	
22 平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどのくらいですか →3時間以上と回答した割合	H27	3.3	0.0	13.6	-2.0
	H26	3.3		15.6	
23 平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか →1時間以上と回答した割合	H27	5.7	0.3	26.7	-4.4
	H26	5.4		31.1	
24 携帯電話やスマートフォンを所持している割合	H27	47.8	-6.0	66.5	-3.9
	H26	53.8		70.4	

※20 から 24 については、数値が高いほど、また、比較の値が大きいほど改善の必要性が高い。

〈学校質問紙調査の結果〉

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小5、中2とも9割を超え、高くなっている。小5は、経年比較から取組の充実がうかがえる。
- 算数、数学の指導において、補充的な学習の指導及び発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小5で5割程度、中2で2割程度と低い。

質問事項	年度	小学校5年生		中学校2年生	
		回答	経年比較	回答	経年比較
1 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	H27	90.7	1.3	96.6	-0.6
	H26	89.4		97.2	
2 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	H27	83.5	5.1	86.7	4.2
	H26	78.4		82.5	
3 算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H27	64.0	9.4	24.5	-7.0
	H26	54.6		31.5	
4 算数・数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H27	55.4	3.4	16.8	-7.7
	H26	52.0		24.5	
5 英語の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	H27			19.6	-2.8
	H26			22.4	
6 英語の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	H27			17.5	-2.8
	H26			20.3	
7 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったか	H27	90.3	6.4	94.4	0.0
	H26	83.9		94.4	

3 今後の対応

- 「全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」の正答率は、全ての教科で期待値と5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、小5の算数と中2の数学の一部を除いて期待値を下回っている。「基礎・基本」を確実に定着させながら、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る取組も必要である。
- 「全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」の正答率は、期待値との比較においては課題が見られるが、経年比較では半数がプラスとなっており、徐々に改善が図られていることが分かる。学力向上に向けての基本となる「5つの提言」を踏まえ、各学校が授業改善に取り組んだり、指導主事の学校訪問の機会をとらえ、課題となっていた「授業の最後に振り返る活動」を確実に行うよう働き掛けたりしたことが改善要因の一つと考えていることから、今後も継続し、働き掛けていく。
- 各教科の「教科全体」、「基礎・基本」、「思考力・判断力・表現力」や「領域」ごとの調査結果で、経年比較の変化が大きかった点について、今後さらに詳細な分析を行い対策を講じていく。
- 個に応じた指導が不十分なところが見受けられるため、学習内容の定着に向け、学校の状況や児童生徒の実態に応じた指導の充実を図っていくよう各学校へ促していく。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業はほとんどの学校で行われるようになっている。一方、小5の国語の「書くこと」には課題が見られる。双方の関連も含めて分析を行い対策を講じていく。
- 震災の影響に関する質問では、小5では、影響を感じていると回答した割合が増えている。一方、中2では、徐々に減ってきている。今後も児童生徒の姿を注意深く見守りながら、これからも子供の心のケアに努め、家庭学習を含め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく。
- 中2の携帯電話やスマートフォンの利用時間が減少しており、小5もテレビの視聴時間、テレビゲームの時間が減少している。基本的な生活習慣、学習習慣の形成を一層図っていく。
- これから調査結果の詳細な分析を進め、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果分析と連動させながら検証改善サイクルの充実を図るなど、市町村教育委員会と連携して学力向上に向けた具体的な取組を進めていく。